

# 英語学概論(第11講)

5 文型

# この講で学ぶこと

- ▶ 5文型という概念とは何か。
- ▶ 長い文でも5文型の重ね合わせであることを知る。




# 5 文型とは何か

- ▶ 英語にはたくさんの文があり、その種類は無限の数あるように見える。
- ▶ しかし、主語(S)・述語動詞(V)・目的語(O)・補語(C)という要素に注目すれば、5つに分類することができる。
- ▶ 第1文型SV
- ▶ 第2文型SVC
- ▶ 第3文型SVO
- ▶ 第4文型SVOO
- ▶ 第5文型SVOC
- ▶ これらの文型(Sentence Pattern)をその要素に注目して理解することで、多様で複雑に見える英文も簡単に理解することができるようになる。



# 5 文型の実例

- ▶ 第1文型 SV Taro sings. (太郎は歌う)
- ▶ 第2文型 SVC Taro is young. (太郎は若い)
- ▶ 第3文型 SVO Taro loves Hanako. (太郎は花子を愛している)
- ▶ 第4文型 SVOO Taro gave Hanako a present.  (太郎は花子にプレゼントした)
- ▶ 第5文型 SVOC Taro made Hanako happy. (太郎は花子を幸せにした)

# 修飾語

- ▶ これらS,V,O,Cという要素は文を構成する大切な骨組みで、その骨組みを修飾するものが修飾語である。修飾語は省いても文は成立するが、骨組みであるS,V,O,Cという要素は省くことはできない。
- ▶ During her stay in Kyoto, Junko often walks on the street.
- ▶ (京都に滞在中、順子は頻繁に通りを散歩した)
- ▶ 上の文では、下線部 During her stay in Kyotoとoftenとon the streetは修飾語(句)なので、省略しても文は成り立つ。しかし、骨組みであるJunkoとwalksは取り除くわけにはいかない。Junkoとwalksの部分が骨組みである。JunkoはS(主語)、walksはV(述語動詞)と考えられる。

# 各要素と現れる品詞（表示）

要素	S主語	V述語動詞	O目的語	C補語	修飾語
該当する品詞	名詞/代名詞	動詞	名詞/代名詞 	名詞/代名詞/形容詞	副詞
第1文型 SV	○	○			△
第2文型 SVC	○	○		○	△
第3文型 SVO	○	○	○		△
第4文型 SV00	○	○	○		△
第5文型 SVOC	○	○	○	○	△

# 7文型の提案

- ▶ 5つの文型では不十分だとして、R. Quirk et al. (1985: 53) が、SVA, SVOAという2文型を加えて7文型を提案している。
- ▶ それは、第1文型のSVや第3文型のSVOのあとにくる修飾語が文の構成に必要な場合があり、これを別の文型として正式に認めていこうとする考えある。そのような修飾語を示すのに、A（副詞類Adverbial）という表現を使っている。
- ▶ SVAの例として、I have been in the garden.（私はずっと庭にいた）という文を考えてみる。この文では、下線部は副詞句であるが、この部分がないと文は成立しない。つまり、\*I have been.だけでは不完全な文である。
- ▶ その意味で修飾語句でありながら、文の骨組みとなっているわけで、第1文型のSVには収まりきらないと考えて新しい文型が提案されている。
- ▶ また、SVOAの例として、You must put all the toys in the box.（おもちゃは全部箱の中にしまいなさい）という文も下線部の副詞句がないと文は成立しない。このように、新たに文型SVOAも提唱された。




# 8文型

- ▶ 安藤(1983)貞雄は、SVCAという文型を提案している。
- ▶ I am fond of cats. (私は猫が好きだ) やMary is good at mathematics. (メアリーは数学が得意だ) に注目する。
- ▶ これらの文は、下線部の副詞句が取り除かれると文が成立しない。SVCに加えて修飾語であるAも骨組みであると見なす文型SVCAが提唱されたのである。
- ▶ そのような考えから、前のスライドで示した2つの文型に加えて、SVA, SVCA, SVOAの3つの文型、合計すると8つの文型が提案された。



# SV, SVC, SVO 自動詞、他動詞

- ▶ SV型で使われる動詞は、それだけで意味が完結するので、「自動詞」と呼ばれる。
  - ▶ なお、SVC型のように、次に補語を取る動詞も「自動詞」である。
  - ▶ 自動詞には2種類あって、SVC型の動詞のようにC（補語）をとるのは「不完全自動詞」と呼ばれ、SV型の動詞は「完全自動詞」と呼ばれている。
- 
- ▶ SVO型のように、目的語がないと意味が完結しないで、次に目的語をとる動詞は「他動詞」と呼ばれている。
  - ▶ 動詞が自動詞であるか他動詞であるかによって英文の構造がまったく異なる。

# SVO型（第3文型）の特徴

- ▶ 第3文型であるSVO型は、動詞のあとに目的語がくることが最大の特徴である。目的語になるのは、前のスライドの表で示されたように、名詞的な性格の持つもの（名詞、代名詞、名詞句、名詞節）でなる。
- ▶ 第2文型であるSVC型と形は似ているが、SVC型ではS=Cという関係が成り立つのに対して、SVO型では、S≠Oという関係となる。次の文は第3文型であって、前の下線と次の下線の部分にはイコール関係は成立しない。
- ▶ My father ate breakfast yesterday. （父は昨日は朝食を食べた）
- ▶ Tom hate her for her betrayal to him. （トムを裏切ったので彼女が憎い）
- ▶ She can start the lesson twenty minutes earlier. （レッスンを20分早く始めることは可能だ）

# SV00型（第4文型）とは何か

- ▶ 第4文型は、2つの目的語を取る。
- ▶ 第4文型とは、S（主語）+V（述語動詞）+O（目的語）+O（目的語）で、「誰々に何々をする」を意味の構文である。
- ▶ この型の動詞は授与動詞と呼ばれ、目的語を2つ取るのが特徴である。
- ▶ 目的語は、「誰々に」を示す間接目的語(IO=Indirect Object)と、「何々を」を示す直接目的語(DO=Direct Object)の2つがある。
- ▶ なお、目的語を2つとるので、動詞は2重目的語動詞(double-object verb)とも言われる。

# SV00型における所有関係

- ▶ SV00型において、間接目的語が直接目的語を所有するという関係が成立することが多い。
- ▶ 例文 He handed the salesclerk the money. では、handedすることによって、the salesclerkはthe moneyを所有することになる。
- ▶ He bought his daughter a dress. では、boughtすることによって、his daughterはa dressを所有することになる。
- ▶ SVOC型では、O=Cという関係が成立することと対照的になる。

# SVOC型（第5文型）

- ▶ 第5文型とは、S（主語）+V（述語動詞）+O（目的語）と続く構文に、目的語を説明するC（補語）が続く構文である。
- ▶ 補語になるのは、名詞、形容詞、分詞、句、節などである。
- ▶ Our team made Jiro captain.（私たちのチームは次郎をキャプテンにした）
- ▶ This news made her happy again.（このニュースで彼女は再び喜んだ）
- ▶ Satoko forced him to take the offer.（聡子は彼に申し出を受けるように強要した）
- ▶ He kept me waiting in the room.（彼は私をその部屋で待たせた）

# 目的語と補語がイコール関係

- ▶ 第5文型では、目的語と補語がイコール関係にある。
- ▶ 前のスライドでは、Jiro = captain, her = happy, him = to take the offer, me = waiting in the roomという等式が成り立つ。
- ▶ SVOO型は、IO（間接目的語）がDO（直接目的語）を所有する関係にあると述べたが、そのことと比較することができる。

# 課題

- ▶ 次の文の各要素に下線を引いて要素名を述べなさい。また日本語の意味を述べなさい。
- ▶ (1) What made him so angry?
- ▶ (2) You must keep it a secret.
- ▶ (3) Don't leave the door open.
- ▶ (4) I shook him awake.
- ▶ 次の文をSV型の英語に直しなさい。
- ▶ (5) 犬が遠くで吠えていた。
- ▶ (6) 私たちは教室でよく一緒に歌ったものだった。
- ▶ (7) スミス夫人はその光景をみて微笑んだ。

